平成28年度事務事業一覧表　　課名：生涯学習課　　第1号様式

事業番号	事業名	内　容	対象外項目番号
1	社会教育委員会議運営事業	会議の開催、県社教連会議の出席	②
2	青少年指導員連絡協議会運営事業	青少年指導員の会議、主催事業	－
3	社会教育総務運営事務事業	生涯学習推進計画の進行管理	－
4	生涯学習推進事業	講座の開催、社会教育関係団体への助成	－
5	成人式開催事業	成人式の開催	－
6	文化祭開催事業	文化祭の開催	－
7	生涯学習館維持管理事業	生涯学習館維持管理	－
8	文化財保護事業	文化財保存管理、会議の開催	－
9	人権教育啓発事業	人権教育普及活動	－

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月7日
予算事業名	青少年指導員連絡協議会運営事業	担当課名	生涯学習課
		係名	生涯学習係
細分事業名	—	事業番号	2
		事業開始年度	—

1.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	３　青少年	認定番号	—
大施策	Ａ　青少年健全育成の推進	事業名	—
中施策	（１）健全な青少年育成		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	神奈川県青少年保護育成条例、大磯町青少年指導員設置規則			
個別計画等	大磯町生涯学習推進計画			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	地域で青少年の健全な育成活動を積極的に推進するため			
対象 （誰を・何を）	県、町で委嘱した青少年指導員で構成する青少年指導員連絡協議会			
内容	県、町で委嘱した青少年指導員に必要な指導、助言及び諸活動の計画・運営に当たる。青少年指導員連絡協議会として、主催事業を実施し、町主催事業に協力。定員18人、現在委嘱人数12人。任期2年。総会1回、定例会11回、研修会1回以上、社会環境実態調査1回、青少年指導員だより年2回発行、主催事業年3回開催。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	522	468	508
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円	97	72	92
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	425	396	416
	職員人数（概算職員数）	人	0.50	0.50	0.55
	人件費計　(b)	千円	3,064	2,985	3,021
	総事業費　(a)+(b)	千円	3,586	3,453	3,529

事業費内訳 Ｈ　28　年度	報酬：324千円　報償費：20千円　旅費：14千円　需用費：150千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （指標名）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	青少年指導員	人	12	12	12
	②	大磯町民（4月1日基準）	人	32,523	32,377	31,497
活動指標 （活動量）	①	青少年指導員	人	12	12	12
	②	活動事業数	回	14	14	14
成果指標 （達成度等）	①	自主事業参加者	人	65	138	130
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	実施主体は青少年指導員である。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	毎年、工夫を凝らした事業展開である。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	事業の参加者から、毎年楽しみにしている等の意見が聞かれ、団体のPR及び青少年の健全育成に大きく寄与している。
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的　□ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	指導員のボランティアで活発な活動がなされている。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	事務局等の物品を適宜使用するなどして効率の良い運営を行っている。

担当課による評価	■ A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□ B 事業の一部見直しが必要	青少年指導員の創意工夫と熱意、協力によって事業を展開している。
	□ C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□ D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

予算面での支援について検討する。

② 平成28年度に着手する事項

青少年指導員連絡協議会の新規主催事業の早期企画とスムーズな運営。

③ 平成29年度に着手する事項

事業内容については青少年指導員連絡協議会定例会にて早期決定する。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月28日

主催事業の内容検討と企画・立案の効率化を図る。
青少年指導員に対する研修機会の充実を図る。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月7日
予算事業名	社会教育総務運営事務事業	担当課名	生涯学習課
		係名	生涯学習係
細分事業名	—	事業番号	3
		事業開始年度	—

1.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	４　生涯学習	認定番号	—
大施策	Ａ　生涯学習の環境づくり	事業名	—
中施策	（１）生涯学習体制の充実		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	社会教育法			
個別計画等	大磯町生涯学習推進計画			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的 （何のために）	社会教育活動の円滑な運営を図るとともに「大磯町生涯学習推進計画」の進行管理を行うため			
対象 （誰を・何を）	町民。大磯町生涯学習推進会議構成員で構成する大磯町生涯学習推進会議。			
内容	社会教育活動の円滑な運営を図る。社会教育関係各種会議等への出席、社会教育関係印刷物作成等。「大磯町生涯学習推進計画」の進行管理を行う。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成25年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	247	269	328
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	247	269	328
	職員人数（概算職員数）	人	0.55	0.55	0.50
	人 件 費 計　(b)	千円	3,180	3,117	2,732
	総事業費 (a)+(b)	千円	3,427	3,386	3,060
事業費内訳 Ｈ　28　年度	旅費：71千円　需用費：111千円　役務費：138千円　負担金補助及び交付金：8千円				

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	大磯町民（4月1日基準）	人	32,523	32,377	31,497
	②					
活動指標 （活動量）	①	生涯学習推進会議	回	2	2	1
	②					
成果指標 （達成度等）	①	生涯学習推進計画A評価事業数	事業	55	74	84
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	大磯町生涯学習推進会議要綱に基づき会議を開催している。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	大磯町生涯学習推進会議構成員により会議を実施している。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	「大磯町生涯学習推進計画」の進行について適切に管理されている。
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的　□ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	大磯町生涯学習推進会議構成員により会議運営されている。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	会議の開催回数を年1、2回としている。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	「大磯町生涯学習推進計画」に基づき、順調に管理している。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

「大磯町生涯学習推進計画」の進行管理について

② 平成28年度に着手する事項

大磯町生涯学習推進連絡調整会議を適宜開催する。

③ 平成29年度に着手する事項

「大磯町生涯学習推進計画」中間目標値把握のためのアンケートを実施する。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月28日

「大磯町生涯学習推進計画」中間目標値把握のためのアンケート調査を実施する。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月7日
予算事業名	生涯学習推進事業	担当課名	生涯学習課
		係名	生涯学習係
細分事業名	―	事業番号	4
		事業開始年度	―

１.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	４　生涯学習	認定番号	―
大施策	Ｂ　生涯学習活動の活性化	事業名	―
中施策	（１）学習機会・活動の充実		

２.事業の概要

根拠法令・条例等	社会教育法、大磯町単位子ども会事業費補助金交付要綱			
個別計画等	大磯町生涯学習推進計画			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	町民の多様な学習意欲に対応するため、生涯学習の推進と自主学習の活動援助を図る。			
対象 （誰を・何を）	町民。生涯学習グループ、PTA、子ども会等の団体			
内容	各種講座・教室の開催、小中学校PTA家庭教育学級への補助支援、家庭教育、青少年教育、高齢者教室等の社会教育を推進する。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	3,426	2,133	2,912
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円	301		
	起債	千円			
	その他	千円	5		
	一般財源	千円	3,120	2,133	2,912
	職員人数（概算職員数）	人	0.50	0.55	0.55
	人 件 費 計　(b)	千円	2,493	2,784	2,713
	総事業費 (a)+(b)	千円	5,919	4,917	5,625

事業費内訳 Ｈ　28　年度	報酬：1,210千円　共済費：17千円　報償費：380千円　需用費：55千円　役務費：305千円　使用料及び賃借料：470千円　負担金補助及び交付金：475千円

３.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	社会教育指導員	人	1	1	1
	②	大磯町民（4月1日基準）	人	32,523	32,377	31,497
活動指標 （活動量）	①	社会教育指導員	人	1	1	1
	②					
成果指標 （達成度等）	①	講座開催回数	事業	39	41	42
	②	サロン・ド・カルチャー団体数	団体	6	H26年度で終了	H26年度で終了

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	学習機会、情報提供、人材育成を基幹とした事業展開、及び団体に対する補助金や交付金による支援についても、公益性、社会需要、公正性が高い。
	・実施手段は妥当か		□ 妥当　■ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	町民の学習要求を把握し、対応している。
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている　■ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	講座により参加者数にばらつきがある。受講後アンケート結果を基に講座テーマを設定することにより、町民の学習要求に対応している。
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的　□ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	講師は、各専門委員会委員や生涯学習人材登録者を中心に依頼している。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	必要最低限の経費のなかで事業を進めている。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	生涯学習のニーズを把握しながら企画を進めている。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

講座後のアンケート等をもとに次回以降の企画を検討していく。

② 平成28年度に着手する事項

なし。

③ 平成29年度に着手する事項

なし。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月28日

講座受講者のアンケート等を参考にしながら、より良い講座を実施する。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月7日
予算事業名	成人式開催事業	担当課名	生涯学習課
		係名	生涯学習係
細分事業名	―	事業番号	5
		事業開始年度	―

1.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	３　青少年	認定番号	―
大施策	Ａ　青少年健全育成の推進	事業名	―
中施策	（２）青少年活動環境の充実		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	―			
個別計画等	大磯町生涯学習推進計画			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	新成人を祝い励ますとともに、成人自ら大人としての自覚を持ち、心豊かな生活を目指すことを願い、成人の日に成人式を開催するため。			
対象 （誰を・何を）	新成人（平成8年4月2日～平成9年4月1日生まれ）			
内容	町主催の式典である「成人式」の開催と、新成人が自主的に企画・運営する「新成人記念のつどい」を行政がバックアップしている。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	906	905	934
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	906	905	934
	職員人数（概算職員数）	人	0.45	0.50	0.65
	人 件 費 計　(b)	千円	2,377	2,652	3,444
	総事業費 (a)+(b)	千円	3,283	3,557	4,378

事業費内訳 Ｈ　28　年度	需用費：258千円　役務費：17千円　使用料及び賃借料：659千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	新成人（町内）	人	302	260	285
	②					
活動指標 （活動量）	①	実行委員	人	9	10	12
	②					
成果指標 （達成度等）	①	参加者	人	236	183	220
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	実行委員会形式で実施している。
	・実施手段は妥当か		□ 妥当　■ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	教育委員会で行う事業か検討の余地がある。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	毎年県内市町村と比較して、高い参加率である。
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的　■ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	28年度は公共施設を利用している。
	・コストの削減等を図ったか		■ 図った　□ 図られていない　□ 図る余地は無い　□ その他
		理由	28年度については、会場使用料は支出しない。

担当課による評価	■ A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある □ B 事業の一部見直しが必要 □ C 事業の抜本的な見直しが必要 □ D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	評価理由 実行委員、ボランティアの創意工夫、協力により運営がなされている。

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点
式典とティーパーティーの位置づけや費用対効果を検証する。
② 平成28年度に着手する事項
開催内容や実行委員募集のあり方について検討する。
③ 平成29年度に着手する事項
新成人記念のつどいの内容や実行委員募集のあり方について検討する。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月28日

リニューアルしたプリンスホテルを会場として実施する。昨年の実行委員を含めた形で成人式実行委員会を組織し、企画・運営にあたる。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	文化祭開催事業	担当課名	生涯学習課
		係名	生涯学習係
細分事業名	―	事業番号	6
		事業開始年度	平成13年度

１.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	６　文化・文化財	認定番号	―
大施策	Ａ　文化活動の推進	事業名	―
中施策	（１）文化芸術活動の振興		

２.事業の概要

根拠法令・条例等	―			
個別計画等	大磯町生涯学習推進計画			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	おおいそ文化祭の開催			
対象 （誰を・何を）	町民			
内容	各種サークル活動を行う団体を対象とした「おおいそ文化祭」、各地区で開催される「地区文化祭」、団体に所属しない個人を対象とした「おおいそ美術展」を開催する。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	521	611	644
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	521	611	644
	職員人数（概算職員数）	人	0.55	0.60	0.65
	人 件 費 計　(b)	千円	2,228	2,584	2,829
	総事業費 (a)+(b)	千円	2,749	3,195	3,473

事業費内訳 Ｈ　28　年度	報償費：10千円　需用費：190千円　役務費：55千円　使用料及び賃借料：389千円

３.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	大磯町民（4月1日基準）	人	32,523	32,377	31,497
	②					
活動指標 （活動量）	①	入場者数	人	2,111	2,078	2,200
	②	参加団体	団体	28	28	28
成果指標 （達成度等）	①	入場者数	人	2,111	2,078	2,200
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		□ 妥当	■ おおむね妥当	□ 変更の必要あり	□ その他
		理由	平成21年度から運営委員会方式での開催となっており、町民が主体となった開催に移行しつつある。			
	・実施手段は妥当か		□ 妥当	■ おおむね妥当	□ 改善の必要あり	□ その他
		理由	会場分散型の開催が定着しつつある。			
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている	■ おおむね得られている	□ 得られていない	□ その他
		理由	新規参加を促す必要がある。			
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的	□ おおむね効率的	□ 非効率	□ その他
		理由	会場は公共施設を使用しているため効率的に事業を行っている。			
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った	□ 図られていない	■ 図る余地は無い	□ その他
		理由	これまでもコストの削減を行っており、大規模な削減は行えない。			

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	開催会場の検討や実施主体の自立を促進する必要がある。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

より町民主体での開催ができるような支援の仕方を検討する。

② 平成28年度に着手する事項

開催時期の分散化。

③ 平成29年度に着手する事項

新規団体の参加を呼びかける。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月28日

生涯学習館をメイン会場とし、地域や民間施設との連携をさらに推進する。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	生涯学習館維持管理事業	担当課名	生涯学習課
		係名	生涯学習係
細分事業名	―	事業番号	7
		事業開始年度	平成10年度

１.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	４　生涯学習	認定番号	―
大施策	Ａ　生涯学習の環境づくり	事業名	―
中施策	（２）生涯学習施設の充実		

２.事業の概要

根拠法令・条例等	―			
個別計画等	大磯町生涯学習推進計画			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	（１）－②－１	実施項目名	公共施設等の使用料・手数料の見直し
目的 （何のために）	町民の生涯学習活動機会提供のため会場となる生涯学習館の運営、維持管理を行う。			
対象 （誰を・何を）	町民			
内容	使用者が生涯学習館を快適に使用できるように清掃等の各種委託を実施し、館の保守管理を行った。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	8,430	8,537	9,863
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円	887	1,500	1,726
	一般財源	千円	7,543	7,037	8,137
	職員人数（概算職員数）	人	0.40	0.45	0.50
	人 件 費 計　(b)	千円	1,690	2,187	2,578
	総事業費 (a)+(b)	千円	10,120	10,724	12,441

事業費内訳 Ｈ　28　年度	共済費：53千円　賃金：3,159千円　需用費：2,780千円　役務費：248千円　委託料：3,262千円　使用料及び賃借料：332千円　備品購入費:29千円

３.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	大磯町民（4月1日基準）	人	32,523	32,377	31,497
	②					
活動指標 （活動量）	①	使用者数	人	20,150	23,204	24,000
	②	使用団体数	団体	665	766	760
成果指標 （達成度等）	①	稼動率（使用日数/開館日数）	%	87	90	90
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		□ 妥当	■ おおむね妥当	□ 変更の必要あり	□ その他
		理由	町民の生涯学習活動を推進するために維持管理の必要がある。			
	・実施手段は妥当か		■ 妥当	□ おおむね妥当	□ 改善の必要あり	□ その他
		理由	公共性の高い事業のため教育委員会での管理が妥当である。			
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている	■ おおむね得られている	□ 得られていない	□ その他
		理由	使用登録者、使用人数とも増加している。また、各部屋の稼働率も上がっている。			
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的	□ おおむね効率的	□ 非効率	■ その他
		理由	建設から40年以上が経過し、修繕箇所が増加しているため今後もコストの増加が見込まれる。			
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った	□ 図られていない	■ 図る余地は無い	□ その他
		理由	日常的な管理は最低限のコストの中で維持管理を行っている。			

担当課による評価	□	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	■	B 事業の一部見直しが必要	長寿命化を図るため、長期的な修繕計画の下、計画的な修繕が必要である。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点
長期的な修繕計画の作成。
② 平成28年度に着手する事項
受水槽の修繕を行う。
③ 平成29年度に着手する事項
引き続き、来館者が安心して使用できる施設環境を整える。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月28日

集会室の網戸及び事務室のブラインドの修繕を行う。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月3日
予算事業名	文化財保護事業	担当課名	生涯学習課
		係名	生涯学習係
細分事業名	―	事業番号	8
		事業開始年度	―

1.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	６　文化・文化財	認定番号	―
大施策	Ｂ　文化財の保全・継承	事業名	―
中施策	（１）文化財の保存・活用・普及		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	文化財保護法、神奈川県文化財保護条例、大磯町文化財保護条例			
個別計画等	大磯町生涯学習推進計画			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	文化財の保存、調査、普及、利活用			
対象 （誰を・何を）	町内文化財			
内容	文化財専門委員の委嘱、指定文化財の等の調査			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	2,914	3,660	6,033
	国庫支出金	千円			1,000
	県支出金	千円			345
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	2,914	3,660	4,688
	職員人数（概算職員数）	人	0.55	0.70	0.75
	人 件 費 計　(b)	千円	2,990	3,680	3,868
	総事業費 (a)+(b)	千円	5,904	7,340	9,901

事業費内訳 Ｈ　28　年度	報酬：152千円　共済費：5千円　賃金：813千円　報償費：1,554千円　旅費：147千円 需用費：449千円　役務費：129千円　委託料：1,364千円　原材料費：8千円 負担金補助及び交付金：1,412千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	指定･登録文化財	件	44	47	47
	②	埋蔵文化財包蔵地	件	175	175	175
活動指標	①	指定文化財への交付・補助	件	27	26	26
	②	埋蔵文化財の窓口照会	件	718	720	770
	③	埋蔵文化財試掘調査	件	3	6	6
成果指標 （達成度等）	①	指定･登録文化財保護件数	件	44	47	47
	②	埋蔵文化財保護件数	件	175	175	175

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	必要に応じて専門家による意見をいただき、保護の推進が図られている。
	・実施手段は妥当か		□ 妥当　□ おおむね妥当　■ 改善の必要あり　□ その他
		理由	開発事業の増加に伴う、埋蔵文化財の試掘調査、立会い調査に対応している。
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている　■ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	文化財保存団体に対し、保存管理奨励交付金を交付し、団体等との聞取りを進め、実情に沿った保護に努めている。
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的　■ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	文化財保存団体の協力により、実情に沿った保護を行っている。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	突発的な事象のない限り、予算内で執行できるようにしている。

担当課による評価	■ A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある □ B 事業の一部見直しが必要 □ C 事業の抜本的な見直しが必要 □ D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	評価理由 埋蔵文化財の問合せ、試掘・立会い調査件数が増加傾向にあり対応を検討する必要がある。

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点
埋蔵文化財に関わる専門職員の配置について検討。
② 平成28年度に着手する事項
事務分担の見直しや人員の必要性について検討する。
③ 平成29年度に着手する事項
なし。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月28日

国・県補助事業として、神奈川県指定無形民俗文化財「国府祭」民俗文化財調査事業を継続実施する。（３ヵ年事業の２年目）

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	人権教育啓発事業	担当課名	生涯学習課
		係名	生涯学習係
細分事業名	―	事業番号	9
		事業開始年度	平成13年度

1.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	５　人権・男女共同参画	認定番号	―
大施策	Ａ　人権の尊重	事業名	―
中施策	（１）人権教育・啓発の推進		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	―			
個別計画等	大磯町生涯学習推進計画			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	人権問題に対して、正しい認識と理解を深め、人権感覚を育てるため。			
対象 （誰を・何を）	町民			
内容	人権教育担当の社会教育指導員の配置。人権教育講演会の開催。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	1,428	1,429	1,479
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円	5		
	一般財源	千円	1,423	1,429	1,479
	職員人数（概算職員数）	人	0.35	0.35	0.40
	人 件 費 計　(b)	千円	1,764	1,757	2,001
	総事業費 (a)+(b)	千円	3,192	3,186	3,480

事業費内訳 Ｈ　28　年度	報酬：1,210千円　共済費：17千円　報償費：25千円　旅費：40千円　需用費：172千円　負担金補助及び交付金：15千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	社会教育指導員	人	1	1	1
	②	大磯町民（4月1日基準）	人	32,523	32,377	31,497
活動指標 （活動量）	①	社会教育指導員	人	1	1	1
	②	研修会等参加数	回	21	21	22
成果指標 （達成度等）	①	人権教育講演会参加人数	人	71	70	71
	②	人権問題職員研修会	人	42	18	25

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	人権教育担当である社会教育指導員を配置している。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	人権教育講演会を始め、人権教育の啓発に努めている。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	人権教育研修会を受講することにより、情報収集に努めている。
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的　□ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	社会教育指導員が受講した研修での最新の情報をもとに人権教育啓発を行っている。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	参加費が必要な研修は精査し、啓発物品も単価・個数の検討を十分に行っている。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	継続的な人権教育の啓発を推進する。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

国、県の動き、社会のニーズなどを十分に把握していく。

② 平成28年度に着手する事項

なし。

③ 平成29年度に着手する事項

なし。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月28日

人権教育講演会において、ＬＧＢＴ（性的少数者）を取り上げ、啓発に努める。